



鬼の供養塔
／ 帝釈峽

高さ10mにもおよぶ石柱は、帝釈天に命じられて雄橋、雌橋を造った陰陽二鬼様の供養塔といわれています。

おいしじんじゃ
生石神社／口和町永田

石の由来が2説あります。一つは、出雲の国にかよう馬子(まご)が、荷物片荷になったので、路傍にあった石を、片方に乗せて持ち帰ったといひます。もう一つは、出雲の国から火打石を持ち帰り、不思議にもこの石が年々大きくなっていくので、付近の人は、これを神に祀り生石(おいし)神社と呼び、今日に至ったといひます。



ひじりいわ
聖岩／比和町三河内

比婆山の山頂にある岩と関係があるとされ、「年々いじりながら下りてきた岩」と伝えられ神聖な岩として信じられています。



鬼の唐門
／ 帝釈峽

帝釈川の支流にかかる天然橋。昔はこの支流が石灰洞をつくっており、後に洞の天井部が崩れ落ち、入口だけが残りました。地下水道の浸食の過程がわかる2窓になっています。現在は水が流れていませんが、大雨の後には川となりその水はまた地下水道へと流れていきます。



あかこいわ
赤子岩／比和町古頃

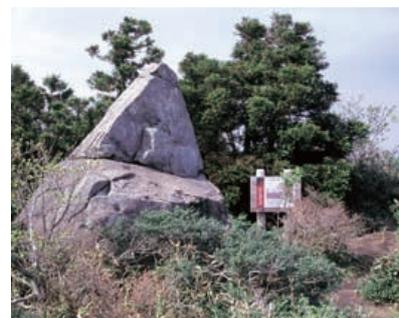
もとは90cm程度でしたが、年々大きくなり、高さ4.2m、周囲6mあまりになったと伝えられ、次第に成長していくことから「赤子岩」と名づけられたのではないかとされています。また、正月にこの岩を3度回り、岩に耳をあてると赤子の泣き声が聞こえると言ひ、赤子の泣き声が聞こえると、子どもを授かるとも伝えられています。

市内には、神秘的な岩や不思議な岩、様々な伝説が残る岩があります。今月は庄原市の「岩」を紹介します。



じょうこうせき
条溝石／比婆山

比婆山一帯には人工的に刻んだと思われる不思議な巨石が数多く発見されています。この謎の巨石には、幅5～10cm、2～5cmの規則正しく刻まれており、中でも、烏帽子山の条溝石は、縦の溝がまっすぐに比婆山御陵を指していることがはっきり分かります。自然の節理によるものとも、御陵にかかわる古代信仰の名残、呪術習俗の跡ともいわれていますが、はっきりしたことは分かりません。



えほしいわ
烏帽子岩／比婆山

比婆山連峰には、烏帽子の形に似た巨石が神格化され、烏帽子岩と呼ばれるものがあります。御陵の峰にある太鼓岩、その南方、立烏帽子山にある備後烏帽子岩に対し、島根県に接する烏帽子山の頂にあるひときわ神秘的なこの石を出雲烏帽子岩と呼びます。